

# 1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年 9月4日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2276600328
法人名	都メディカル有限会社
事業所名	グループホーム 福田の家
所在地 (電話番号)	静岡県磐田市東小島260 0538-55-1700
評価機関名	セリオコーポレーション有限会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成20年7月26日

## 【情報提供票より】(平成20年7月5日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15年12月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	22 人	常勤	20 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 17.2 人

### (2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造 造り	
	1 階建て	1 階 部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

### (4) 利用者の概要(平成20年7月 5日現在)

利用者人数	25 名	男性	2 名	女性	23 名
要介護1	2 名	要介護2	11 名		
要介護3	9 名	要介護4	3 名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 83.6 歳	最低	71 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	大橋医院 原歯科医院
---------	------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開所から4年半が経過し、職員も定着して円滑な運営がされている平屋建て3ユニットのホームである。田園風景の中にあり恵まれた環境もさることながら、管理者はじめ職員の改善意識の高さと実行力がホームのカラーとも言える。職員の提案から始まった月3回の勉強会、運営推進会議への他自治会への声かけ、モニタリングの仕組み、利用者との対話の時間作り等、駄目だったらやり直せばよいと言う姿勢で臨み、話し合いと工夫の跡が随所に見られた。懸案であった地域との交流も一気に氷解して温かな応援を戴くようになった。今後は地域への貢献を意識して地域密着型として双方向で支えあえる関係作りを期待する。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>昨年からの大きな改善点として、地域との交流が挙げられる。館長自らの他自治会への働きかけがきっかけで協力体制が築かれ、今ではその輪が子ども会との繋がりやボランティアの慰問に至るまで広がり着実に地域に密着したホームへと前進している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価では、各ユニット毎個別で計画担当者と職員が話し合いを行っており、職員一丸となって自分達のホームを評価した。ホームを更に良くしていこうという前向きな姿勢が窺える。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は昨年1回、今年になって2回開催されている。市職員がホームの役割や意義について説明したり、ホームが今後の高齢者時代の地域資源であると理解している地域委員の協力により中老会や子ども会にも声かけしていただきホームが地域に馴染むきっかけとなった。災害時の対応についても地域委員から話題に上がり、今後具体的な対策が話し合われる予定である。開催回数は少ないが地域運営推進会議の所期の目的を十分果たしている。</p>
重点項目 ③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族からの意見や苦情はユニットで対応しているがユニットで対応できない事柄は管理者が対応している。職員間で話し合いが必要な場合には話し合い反映している。家族アンケートには職員の利用者に対する温かな介護を讃え感謝する言葉がたくさん寄せられていた。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会には加入していないが地域の理解により豆まきやお祭り等の行事に声をかけていただき地域の方々と交流している。小学校の体験学習を受け入れており、踊りを披露してもらったり一緒に食事やゲームをしたり、利用者は楽しい時間を過ごしている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員で作り上げた「その人らしく安心して過ごせる家」をホームの理念として掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は目に付きやすい位置に掲示している。理念を実現するためには先ずその人を良く知ること、理解することに努め気づきを共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には加入していないが地域の理解により豆まきやお祭り等の行事に声をかけていただき地域の方々と交流している。小学校の体験学習を受け入れており、踊りを披露してもらったり一緒に食事やゲームをしたり、利用者は楽しい時間を過ごした。	○	更に地域と深く関わられるよう、又ホームの役割を地域の方々により理解していただくために認知症相談会や介護教室の開催等を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員共に評価の意義をよく理解し、前回評価後には地域交流等積極的に取り組み改善されている。前回自己評価は管理者が纏めたが今回は各ユニットごとに話し合って評価している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は昨年1回、今年になって2回開催されている。地域委員の協力により、行事への参加や銭太鼓のホーム訪問にまで発展、また災害時の対応についても地域委員から話題に上がり、今後具体的な対策が話し合われる予定である。開催回数は少ないが地域運営推進会議の所期の目的を十分果たしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が主催する介護サービス事業者連絡会が3ヶ月ごとに開催され市内6グループホームが出席して相談や情報交換をしている。また、利用者の生活に関し相談・連携を取っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が面会に来たときに近況を報告している。体調変化には電話で様子を知らせて対応を相談している。金銭管理の報告は入金していただく際に当該期間の報告書と領収書を渡している。	○	利用者のホームでの様子が面会になかなか来れない家族にもお知らせできるよう、定期的なホーム便りの発行や利用者個々の報告が継続されるよう取り組みが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見や苦情はユニットで対応しているがユニットで対応できない事柄は管理者が対応している。職員間で話し合いが必要な場合には話し合い反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の異動は1名に押さえている。現在は職員の離職もなく利用者が馴染みの職員から支援を受けられる安定した運営がされている。職員の意見には速やかに話し合いを持ち合議を図っているため働きやすい職場となっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人による規定の研修が義務付けられており、年3回のレポート提出による報奨も職員の向上心を煽いでいる。各ユニットごとにテーマを決めて実施する勉強会も毎月3回開かれて職員全員の質を向上するよう取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は介護サービス事業者協議会や法人の会議に出席して交流しているが職員が他の事業所と交流する機会は殆ど無い。	○	交換研修や合同勉強会等他ホームとの交流によりサービスの向上につながるよう取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に際しては委細に渡る聞き取りにより出来るだけ意向に沿った支援をしている。希望があればお試し利用にも対応している。また、すでに入居している利用者への影響も考慮したうえで受け入れの決定をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は帰宅願望を持ちつつも職員を家族と思い込んでおり、「お帰り」と迎えてくれる。入居時職員を受け入れなかった利用者と信頼関係が構築できてねざらいや感謝の言葉を戴くことは職員の喜びであり、住みよいホームにしたいと一層努力している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ多くの意向や要望を引き出そうと、職員は偏る事なく利用者に平等な声かけを行う事を意識している。遅番や早朝の静かな時間帯も職員と利用者が1対1でゆっくりと話をする貴重な時間となっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は本人・家族・職員等が話し合いを行った上で作成しており、個別具体的であった。職員担当制をとる事で職員それぞれのより細かな観察を計画に反映する事が出来ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居時の聞き取りから作成した介護計画は2週間後、実際の生活状況を見た上でまず見直しが行われる。その後は3ヶ月ごとに職員が話し合い、モニタリングを行っている。その他、入院や骨折等状態に変化のあった際には随時見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	緊急時やかかりつけ医での受診等、家族での対応が難しい場合は職員が付き添いを行っている。また遠方の家族の訪問時、希望があればホームに宿泊して頂く事も可能である。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人や家族と話し合いを行い、かかりつけ医もしくはホーム協力医療機関のどちらで受診するかを選んで頂いている。定期的な月に一度の受診で利用者の健康管理を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在ホームとしては看取りを行わない方針であり、家族とも話し合いの上理解を得ている。重度化や緊急時の対応については、職員同士で日常的に話し合われており、方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の記録等は事務所内の鍵のかかるロッカーで保管している。ホーム内に写真やホーム便りを掲示する際にも、事前に本人や家族に了解を得る等プライバシーに配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者それぞれのペースを守りながら、希望に出来るだけ応える様心がけて支援を行っている。お酒が好きで夕食前に晩酌をする利用者もいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食後、利用者が自主的に下膳を行う姿が見られた。ホームの食事には以前お弁当を提供していたが、更に美味しいものを味わって頂こうと、食材宅配サービスへ変更した。職員が作った出来たての食事は利用者からも好評である。利用者と職員が共に囲む食卓は、和やかな雰囲気であった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	最低でも週3回は利用者に入浴を楽しんで頂ける体制がある。ユニット毎に入浴日は決まっているが、体調不良等で入れなかった際には他のユニットで別の曜日に入浴させてもらう事も可能である。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	午前中のホーム広場での日光浴や一部の利用者が行う畑での草取り等の時間は利用者にとって大きな楽しみとなっている。しかし、室内に入ってから午後の時間の過ごし方が単調になりがちである。	○	室内での活動として現在ボール遊びや折り紙等を取り入れているが、もう少し個別的でそれぞれの生活歴や興味に沿った活動を発掘・提供し、利用者の更に充実した生活へと繋げて頂きたい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム広場での日光浴や近所への買い物は日常的に行っており、利用者の気分転換や交流の貴重な時間となっている。それ以外にも年に何度か外食へ出かけた時、季節の花を見に出かけたりする機会も用意されている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的には施錠を行わない方針だが、夜間や日中の人浴時間帯等、職員の見守りが薄くなる時間帯には施錠を行っている。家族には事前に説明をし、同意を得ている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	開設以来、ホーム単独での訓練や緊急時対応についての話し合い等を行ってきたが、今年8月には消防署の協力の下、初の合同防災訓練を行う予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材宅配サービスを利用しており、カロリーや栄養バランス等は問題ない。利用者の健康状態の変化や体重の増減があった際には主治医と相談し、食材や量を変更している。水分摂取も充分にして頂ける様、希望があればお茶を入れたペットボトルを配り、部屋で好きな時に飲んで頂ける様にしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く開放的な館内には窓から自然の光が充分に差し込み、心地よい空間となっていた。廊下や居間の壁には職員と利用者が共に作った折り紙の花や指で編んだ草履・写真等が飾ってあり見えて飽きない。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や仏壇等利用者それぞれが使い慣れた物や思い出の品を持ち込んであり、特色のある部屋となっていた。		